

《シンポジウム》

復興の先を見据えた支援 ～住民もNPOも“育つ”復興支援のあり方～

日本NPOセンターでは、岩手、宮城のNPO3団体と共に、住民が自らの役割を持つことにより、住民と地域にどんな変化が起こるのかを、3年間にわたって定点観測しました。現地NPOの視点から、その実践と結果、そして教訓をお伝えします。

実践報告に加え、パネルディスカッションでは、被災地の住民とNPOが自らの力を伸ばしていくエンパワメントの視点に立った支援について、NPO・中間支援組織・企業の立場から考えます。

2017年3月22日(水)



災害復興のその先を見越して、地域の未来をつくるために忘れてはならないものとは何なのでしょう？

これからの東北には、「必要な時に支えてもらえる場があること(居場所)」と同時に、「自分の力と役割を發揮できること(出番)」の両方が必要だと考えます。なぜなら、住民一人ひとりが役割を持ち元気であることが、コミュニティが元気になる循環を生み出すと考えるからです。

「住民の主体性」がつくる元気な地域を目指すために、現地のNPOがどのように取り組み、また、学習のプロセスを重ねていったのか、お伝えします。

さらに、外部支援者は、どのように現地(住民、コミュニティ、現地のNPO活動者)の一步一步を支えることができるのかを投げかけ、議論します。

- 日 時：2017年3月22日(水) 14:00～17:00
- 会 場：TKP東京駅前カンファレンスセンター[5F]
カンファレンスルーム5A
東京都中央区八重洲1丁目5-20 石塚八重洲ビル5F
- 対 象：企業の社会貢献事業担当者、NPO支援組織、
ご関心のある方はどなたでも
- 定 員：30名
- 参加費：無料

〈主催〉

特定非営利活動法人 日本NPOセンター

特定非営利活動法人 @リアスNPOサポートセンター

特定非営利活動法人 陸前たがだ八起プロジェクト

特定非営利活動法人 ウィメンズアイ

◎ 3年間の取り組み紹介

◎ 「なぜ、復興に『住民主体』が必要なのか」

・日本NPOセンター

◎ 「住民とコミュニティの『変化』をどのように振り返ったか」

・田中 博さん（参加型評価ファシリテーター）

◎ 現地NPOによる活動報告

「復興活動の現場で見えること、学んできたこと、伝えたいこと」

- ・特定非営利活動法人 陸前たがだ八起プロジェクト（陸前高田市）
- ・特定非営利活動法人 @リアスNPOサポートセンター（釜石市）
- ・特定非営利活動法人 ウィメンズアイ（南三陸町）

◎ パネルディスカッション

「復興の先を見据えた支援のあり方」

- ・村島 弘子さん（特定非営利活動法人 移動支援 Rera 代表）
- ・鹿野 順一さん（特定非営利活動法人 いわて連携復興センター 代表理事）
- ・金田 晃一さん（一般社団法人 日本経済団体連合会 社会貢献担当者懇談会 座長 / ANAホールディングス株式会社 コーポレートブランド・CSR推進部 グローバルCSRヘッド）
- ・コーディネーター 田尻 佳史（日本NPOセンター）



村島 弘子さん



鹿野 順一さん



金田 晃一さん

申込方法

いずれかの方法でお申込みください。

(1) ウェブサイトから >>>

日本NPOセンター ホームページより、本プログラムの申込ページにおすすみください。

(2) E-mailまたはFAX・お電話にて >>>

「ご所属」「お名前」「ご連絡先」をお知らせの上、お申し込みください。

<宛先> 特定非営利活動法人日本NPOセンター（担当：山本）

TEL：03-3510-0855 / FAX：03-3510-0856

E-mail：shinsai01@jnpoc.ne.jp

アクセス



- * JR「東京駅」八重洲北口から徒歩1分
- * 地下鉄「日本橋駅」A3出口 徒歩3分
- * 地下鉄「大手町駅」B9出口 徒歩3分

復興の先を見据えた支援～住民もNPOも“育つ”復興支援のあり方～ シンポジウム参加申込書

FAX：03-3510-0856

ご所属（団体名・会社名）		
お名前		
ご連絡先	E-mail：	TEL：